

# 柏崎刈羽原発とオフサイトセンターを視察 災害対策特別委員会

7月31日、上野議員が委員長を務める上越市議会災害対策特別委員会は、柏崎刈羽原子力発電所と、県防災センター（オフサイトセンター）を視察しました。

原子力発電所では、冒頭、所長から「東日本大震災から3年4か月が経過したが、福島県民の皆さんには今なお故郷に帰還できない状態が続いており、大変申し訳ない。できる限



り、このことをしながら、二度とこのような事故が起こらないように、安全対策に努めている」との積明がありました。一定の説明を受けた後、第4号機の建屋内に入り、炉心などを視察。その後、バスで移動しながら、原発敷地内の諸設備や防潮堤などを視察しました。

原発敷地内に入る時は、検問のとき、関係機関や市町村などが一堂に集まって対策を練る重要な施設です。福島第一原発事故の教訓から、原発から5km以内にある場合は、5km圏外に移転することになりました。新潟県の防災センターは、7・5kmのところにあります。これで、いざという時に機能できるのかと、疑問が出されました。



## 安倍政権の暴走ストップ、暮らしを守る県政実現へ誓い新たに 日本共産党演説会にバス12台連ねて市内各地から



8月1日夜7時から、リージョンプラザ上越コンサートホールで、日本共産党演説会が行われました。

この演説会には、上越市内各地から12台のバスを連ね、多くの市民が参加し、会場は満席となりました。安倍政権の暴走に対する市民の不安や、関心の高さが表れた演説会となりました。

冒頭、開会のあいさつに立った上野議員は、「今日の演説会は、党や後援会の人だけでなく、これまではあまり日本共産党に近い位置にいなかった人たちも参加してください。党（議員団）を代表して心からお礼を申し上げる」「安倍政権の暴走は、どれをとっても国民の願いに逆行するもの。一つひとつの問題で、一致できるところで共同を

すすめ、対案を示して対決していけるのは日本共産党だけ。皆さんと力を合わせて暴走政治を食い止めよう」と呼びかけました。

はしづめ法一議員団長は、安倍内閣の暴走政治と対峙しようとし

ない県議会の実情や、県政の課題を具体的にとりあげました。

「今、安倍政権は暴走に暴走を重ねている。こんな時だからこそ、国会でも、県議会でも、市議会でも、議員は怒らなければならない。ところが県議会では、消費税の増税をやめてもらいたいという請願も、集団的自衛権行使容認反対の請願も、原発再稼働差し止めの請願も、すべてに背を向けている」「県議会の圧倒的多数は安倍内閣べったりだ。こんなことでは県民の命と暮らしを守ることはできない。こんな県議会を変えるために、私を県政に関わらせてほしい。日本共産党の躍進で県政は変わるし、安倍政権の暴走政治をストップさせる確かな力にもなる」と力強く訴えました。

国会から駆けつけた日本共産党参議院国対委員長の井上さとし議員は、この間の国会での論戦に触れ、安倍首相自らが「自共対決だった」と認めざるを得ないほど、国民の命と暮らし、平和を守る日本共産党の姿と役割が鮮明になっていることを明らかにしました。

そして、「政党助成金も献金も受け取らない、国民の立場で頑張れるこの党をもっともっと大きくしてほしい」との訴えに、大きな拍手が起こりました。

### 日本共産党上越市議員団ニュース

No.422 2014年8月10日

連絡先  
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)